

## 「善悪」を心の基点に、 物事を判断する

時の経つのは本当に早い。今年も気が付けば「師走」を迎えました。振り返れば、皆様にとってどういう一年でしたか？今年の世相は「年金問題」にはじまり、リーダー達による不祥事。様々な偽装問題等々…今まで溜め込んできた社会のウミが一気に溢れ出た一年だった様に思います。私達にとって『人生』とは、心配しながら生きるか、安心して生きるか、幸せに生きるか、はたまた不幸せに生きるかしかありません。そんな「人生」という大海原を生きていく中で、私が最近自分のテーマに置いていた事が1つあります。それは「損得勘定」で全ての物事を判断するのではなく、「善悪」を物事の基点において考え、行動するように心掛けています。この辺の話は、また後ほど紹介します。

話は飛びます…先月23日に島根県で結婚式に招かれ、初の島根県入りを果たしました。魚津駅を出発し、京都で岡山行きの新幹線に乗り

換え、出雲市駅まで…電車を乗り継ぎ、乗り継ぎ、移動時間のみで、ざっと8時間もかかりました。島根県と言えば「出雲大社」、今年世界遺産に認定された「銀山」、あるいは「小泉八雲」、食べ物で言えば「出雲ソバ」等々が有名ですし、私にとって興味のある事柄ばかりなので、かねてから1度は行ってみたくて思っていた島根県でしたが、こつという機会でもないと、八時間もかけて行ける所ではありません。

今回は折角の機会ですし、あまり大きい声では言えませんが、私にとって結婚式よりも「出雲大社」参拝が一番の目的でした(苦笑)。到着した翌日(23日)の早朝、出雲市駅から出雲大社まで出ているバスに乗り込み20分。バスは出雲大社に到着。出雲大社と言えば、八百万(やおよそ)の神々が一同に集結するといわれる神社でもあります。一般に10月を「神無月」と申しますが、出雲大社に全国の神々が集結し、全国の大社・神社の神様が不在になるところから、「神無月」と名付けられています。因みに、旧暦と比べ、新暦では1ヶ月遅れで読みますので、厳密に暦の上(旧暦)から言えば、11月が本当の「神無月」とい

う事になります。ややこしいですが、つまり私が参拝した11月は、旧暦でいうところの「神無月」に当たります。そして、私が参拝した23日が、1年に1度、出雲大社に八百万の神々が集結すると言われる「神在月(かみありつき)」に当たっていました。しかも23日から28日までの1週間のみ、八百万の神々が集結すると信じられているのですが、たまたまその初日だったのです。(出雲大社のみ「神在月」と呼びます。)

またこの日は、全国でいうところの3連休の初日という事も重なって、出雲大社は黒山の人だかりで、こつた返してました。そんな大社に4時間くらいですかねえ…各神前で賽銭を上げ、「南無妙法蓮華経」と平和を祈りながら参拝させて頂きました。「さすが出雲大社！」心が踊れ、終始感激していました。

その後、披露宴会場へと戻り、素晴らしい披露宴も無事に終焉…。私はもう1度「出雲大社」に詣でる決心をしていました。それも夜を徹して「南無妙法蓮華経」と、平和祈願をさせて頂こうと考えていました。部屋に戻り、身支度を整えていると、部屋のインタ

ーホンが「ピンポン」。ドアを開けると、結婚式に参集していた仲間達が「次の3次会は一緒に行くぞぜ」と誘いに来てくれたのです。久々に会う仲間達と語りうのも魅力的だけど、どうしても出雲大社参拝への思いを拭いきれず、その旨を皆に話すと、「じゃあ俺も出雲大社に行きたい。」「俺たちも一緒に参拝させてくれ。」「等々と、口々に言い始め、あれよあれよと参拝団一行が出来上がりました(笑)。結局、数人の仲間達と一緒に参拝することになり、おまけに新郎新婦までもが、出雲大社参拝に便乗してきました(笑)。「こつなりや皆で行こう!」とタクシーに乗り合わせて出雲大社の「本殿」へ…我々が到着したのが午後十時前くらいだったかな?もう間もなく閉社されようとしているところでした。因みに普段なら、午後8時には閉社するそうなのですが、「神在祭」という事で、この日だけは開社してたのです。しかし時間は既に十時前…宮司さん達も帰り支度をしておりました。そんな宮司さんに「少しで良いのです。皆の平和祈願をさせて下さい」と頼

み込み、神前で祈りを許して下さいました。

新郎新婦を真ん中に、我々は本殿前の石畳の上に正座して、「方便品・寿量品・神力品」そして「南無妙法蓮華經」と声高らかに唱えました。宮司さんも親切に、1度落とした本殿の明かりを再び灯して、祈りが終わるのを待っていていました。私達は「幸せて安心できる世の中」を一心に祈りました。この時の祈りは、神も仏も一体になられていた様に感じます。また、「平和」という、心に抱く共通の願いが、出雲大社の宮司と、私達僧侶の気持ちも一体にしたのではないかと思います。八百万の神々が、その光景を御覧になり、「お前達、頑張れよ！」とエールを送って下さった様にも思います。私達の「平和」を願う強い意志が神仏に通じ、本殿前で「南無妙法蓮華經」への祈りに繋がったものと思います。それは神仏様も、人類の平和を期待し、祈っておられる証拠ではないでしょうか？

生きる意味を見出せない人間が多くなった現代日本。師走を迎えた私

達の胸に去来してくる感情は、どう  
いう思いでしょうか？

人々が助け合う利他的（相手にとつて得のある）な社会、利他の心に基づいた社会が必要です。現代は、人の幸福を願う利他的な心に基づく社会こそが求められているにもかかわらず、そうならないのは何故でしょうか？「それは自分と他の人とは何の関係もなく、働いて給料をもらうのは自分自身だ。人に依存しなくても、自分1人で生きていける」という、間違った考えを持つている人が多いという事でしょう。人間は社会的な動物であり、1人では生きていけない動物です。周囲の人や、社会からの思いやりがなければ、決して安心して生きていけないのです。社会的な不正や差別に対しては、各人が慈悲の心、仏様の心に基づき、大いなる怒りの心をもって、社会をより良きものにしていくという勇気と、覚悟を持つべきなのです。自分だけの損得勘定で物事を判断する時代は終わりにしましょうよ。「善と悪」を心の規準に据えて、人間として正直に、日常の生活を送るように心掛けましょうよ。「自分が大事、自分が1番…」と

いう考えは生きていく上で勿論大事です。しかし、それが全ての判断基準では、いつまで経ってもキリがないでしょう。

個人の幸せも国家が平安でなければ得られません。「個人の安全を願うなら先ず四表（しひょう）の静謐（せいひつ）を祈れ」と日蓮聖人は入滅になられる直前まで、弟子信徒に向かって教示されました。つまり日蓮聖人の心は、**正法を立てて国を安んじる事**に込められていました。

さあそこで、今年最後のお参りとなる、「冬至祈祷（22日）」が近づいてきました。私は、檀家・信徒の皆さんの平和と、安心した社会を祈り、真成寺境内で水を被らせて頂こうと思いましたが、別紙にも案内させて頂きましたが、「私も、自分自身を浄めたい」と仰る方があれば、どうぞ私と一緒に水を被り、今年1年の反省と、来年に向けての誓願を新たにして、今年を終えようではありませんか？

目の前に現れる事象は、全て自分が織り成す世界です。人は1人ではありません。周囲の皆と、支え合いながら共にあるのが人生です。そして、そんな自分自身の事を、神仏様はいつも見

守っておられます。今年も残り少なくなってきました。社会の悪に気付き、善を行う自分でおられる様に、そして神仏様の方から、声を掛けて頂けるように益々の精進を誓いましょう。

合掌 副住職 谷川寛敬

